

【参考資料2】 指針に基づくがん検診について

がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針（厚生労働省健康局長通知）

死亡率の減少効果について科学的根拠のあるがん検診が、市町村の事業として行われるよう国が示した指針。

がん検診の種類	がん検診の内容		
	検査方法	対象者 ^{※1}	受診間隔
胃がん検診	①問診、胃部エックス線検査 ②問診、胃管内視鏡検査	① 50歳以上の男女 ^{※2} ※2. 当分の間、エックス線検査は40歳以上も可	① 2年に1回 ^{※3} ※3. 当分の間、エックス線検査は年1回も可
大腸がん検診	問診、便潜血検査（2日法）	40歳以上の男女	年1回
肺がん検診	質問、胸部エックス線検査、喀痰細胞診（原則50歳以上で喫煙指数が600以上の方のみ。過去の喫煙者も含む。）	40歳以上の男女	年1回
乳がん検診	問診、乳房エックス線検査（マンモグラフィ）	40歳以上の女性	2年に1回 ^{※4}
子宮頸がん検診	問診、視診、子宮頸部の細胞診、内診	20歳以上の女性	2年に1回 ^{※4}

※1…いずれの検診においても、受診を特に推奨する者は69歳以下の者とする。

※4…前年度が受診すべき年であったが、何らかの理由により受診できなかった者は、当該年度に受診できるようにすること。（偶数歳での受診を基本としている場合、42歳の年に未受診であれば43歳の年でも受けられるようにする。）